

# 令和5年度の主な取組について

## ■ 全国に向けた緑化イベントの具体的な検討

広く緑化意識の高揚と緑豊かな潤いのある住みよい環境づくりを推進することを目的に、国や関係各機関と調整し、緑化に係る全国に向けた新規イベント企画の具体化を進めるとともに、推進体制の構築を進めます。

## ■ 五泉市、鹿角市との連携による森林整備事業

令和5年2月に森林整備に係る協定を各市と締結しました。令和5年4月以降に、森林整備を実施する区域を選定し、その実施方法、時期等を定めた森林整備計画を策定し、森林の整備を進めていきます。

※ 費用は葛飾区が負担し、森林整備により得られるCO<sub>2</sub>吸収量は、葛飾区域内の二酸化炭素排出量と相殺できます。

## ■ (仮称)葛飾区再生可能エネルギー導入戦略の策定

区内における再生可能エネルギーの最大限の導入及び活用を図るため、区内の再生可能エネルギーのポテンシャル調査や将来のエネルギー消費量の推計等を行い、再生可能エネルギーの導入の目標を設定します。

また、目標達成に向けた施策の検討や施策の実施に向けた区民・事業者・関係団体などステークホルダーとの連携可能性等の検討を行うとともに、地域脱炭素ロードマップに基づく本区における地域脱炭素実現を目指した今後の展開についても検討します。

※ 本策定に当たっては、令和5年度に開催する環境審議会において、審議いただくことを想定しています。

## ■ 公共施設太陽光発電導入検討調査の実施

区有施設に太陽光発電システムを効率よく導入する必要があるため、導入に係る調査を実施します。

### 【主な実施内容】

- 調査対象施設の抽出、現地調査
- 設備設置計画策定
- 設備整備費、運用費及び発電量の算定、事業収支シミュレーション など

# 令和5年度の主な取組について

## ■ 食品ロス削減の啓発の拡充

食品ロス削減の啓発を更に推し進めるため、令和5年度に作成する「資源とごみの収集カレンダー」のページ数、内容を見直し、食品ロス対策についてのページを増やし内容を充実させます。

## ■ 燃やさないごみ及び粗大ごみの資源化品目の拡充

資源の循環を更に推し進めるため、令和5年度は新たに、燃やさないごみから乾電池類を、粗大ごみから金属類を抜き出して資源化します。

## ■ 製品プラスチックの資源化の検討

これまで燃やすごみとして処理してきた製品プラスチックを、燃やすごみから分別し、資源化していくために、実施方法等を具体的に検討していきます。

## ■ 古布の資源化の拡充

現在、集団回収及び拠点回収において資源として収集している古布の資源化率を上昇させるため、区民が古布を資源として排出しやすい環境を整えていきます。

# 全国に向けた緑化イベント

そして、

## 葛飾未来まちづくりの仕組み構築

葛飾区の「広く緑化意識の高揚と緑豊かな潤いのある

住みよい環境づくり推進」することを目的に

全国に向けて発信・提案する機会と捉え新規イベントを実現

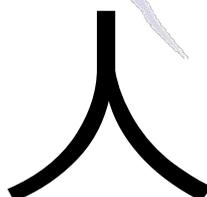


葛飾区の「みどりと花のまちづくり」

いまとこれからの取組みをショーケースとして

全国発信

葛飾の資源で課題解決



# 地域間連携による森林整備（カーボン・オフセット事業）

- ▶ **地域循環共生圏※の考え方を踏まえ、本区と包括連携協定を締結している新潟県五泉市及び秋田県鹿角市の森林を整備することにより、カーボン・オフセット事業を行います。**

※ 各地域が地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方



## ◆ 主な連携内容

1. 共同して市内の森林整備を行うことにより得られる二酸化炭素吸収量を区内で発生する二酸化炭素排出量と相殺する。
2. 森林整備事業の一環として、環境学習等の地域間交流を行う。

→ 五泉市及び鹿角市の市有林を対象に整備（主に間伐）を行います。  
今後も環境の保全、森林の保全に寄与する連携方法を検討します。

# カーボン・オフセットとは

カーボン・オフセットとは、自分たちが出した温室効果ガス排出量のうち、削減努力をしてもどうしても減らせない排出量の全部、または一部を他の場所での排出削減・吸収量で埋め合わせ（オフセット）をすることをいいます。



出典:みどり東京・温暖化防止プロジェクト「ECOネット東京62」

# 区有建築物のZEB化への取り組み

## 新築建築物

区内初

- この春に着工予定の「葛飾区清掃事務所」が「ZEBReady」認証を取得しました。断熱や高効率設備機器の導入により建物のエネルギー消費量の51%削減を実現します。

- 現在進行中の学校改築計画においても「ZEBReady」以上を目指し設計作業を進めています。

## 既存建築物

- 学校などの多くの建物でエアコンが整備されていますが、建て替えが行われていない施設では断熱材が施されていないため、冷暖房効率が悪く、ZEB化を見据えた省エネ対策が課題です。

- 本格的なZEB改修の実施に向け、試験的に小学校1教室を断熱改修し、収集した温度変化等のデータを現在、検証しています。  
※「清和小学校教室断熱ワークショップ」開催

- 検証結果を活かし、既存建物全体のZEB改修につなげていきます。

### ZEBReady認証



### 葛飾区清掃事務所



### 清和小 断熱WS

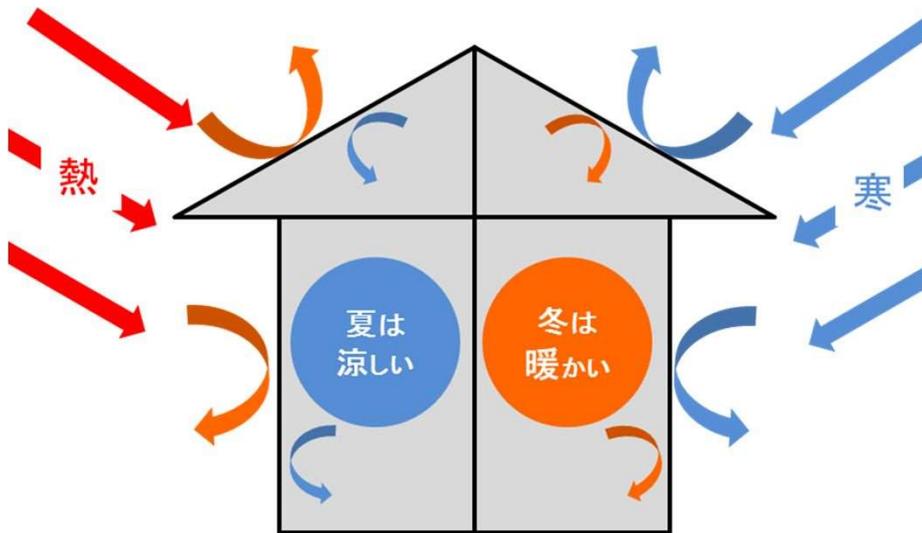


# かつしかエコ助成金 追加項目

## ◆高断熱住宅への助成

- 新築の高断熱住宅への助成を行います。
- 断熱性能の高い住宅は、冷暖房の効率化による省エネだけでなく、健康で快適な暮らしにも寄与します。

### 高断熱住宅のイメージ



### 高断熱住宅のメリット

- 省エネにより二酸化炭素排出量の削減につながるだけでなく・・・  
**→健康で快適な暮らしなど様々なメリットがあります！**
- ✓ エネルギー価格高騰下における光熱費の削減
- ✓ 結露を減らし、カビの発生を抑制
- ✓ 「ヒートショック」等のリスクを低減
- ✓ 部屋間の温度差をなくし、快適で健康にもメリット

【助成対象】 住宅性能表示制度における断熱性能等級が5以上に相当する住宅

【助成額】 等級5：30万円、等級6以上：60万円

ZEH（省エネ+創エネによりエネルギー消費正味ゼロの住宅）  
の場合：20万円を加算

## ◆ 温室効果ガス算定・削減クラウドサービス利用料の助成

- 事業者向けに温室効果ガスの算定と削減策の提案を行うクラウドサービスの利用に対し助成を行います。

- ✓ 今般、脱炭素やSDGsへの関心が高まっており、環境に配慮した活動を行い、情報発信を行う企業が増えてきています。
- ✓ 大手企業などでは、取引先を含めた温室効果ガス削減の取組を行う動きがあり、国や都への排出量の報告を義務付けられていない中小企業においても、取引先から排出量の報告や削減の取組の提示を要求される事例も挙がり始めています。

- 一方で、排出量削減の取組の第一歩となる排出量の算定については、知識の取得や作業など一定の業務量が必要

- 温室効果ガス排出量の算定の支援と削減策の提案を行う、クラウドサービスを利用する区内中小企業に助成を行います。

算定支援の例：電気料金の請求書のデータや写真を送付すると自動で集計し、  
CO2排出量を計算

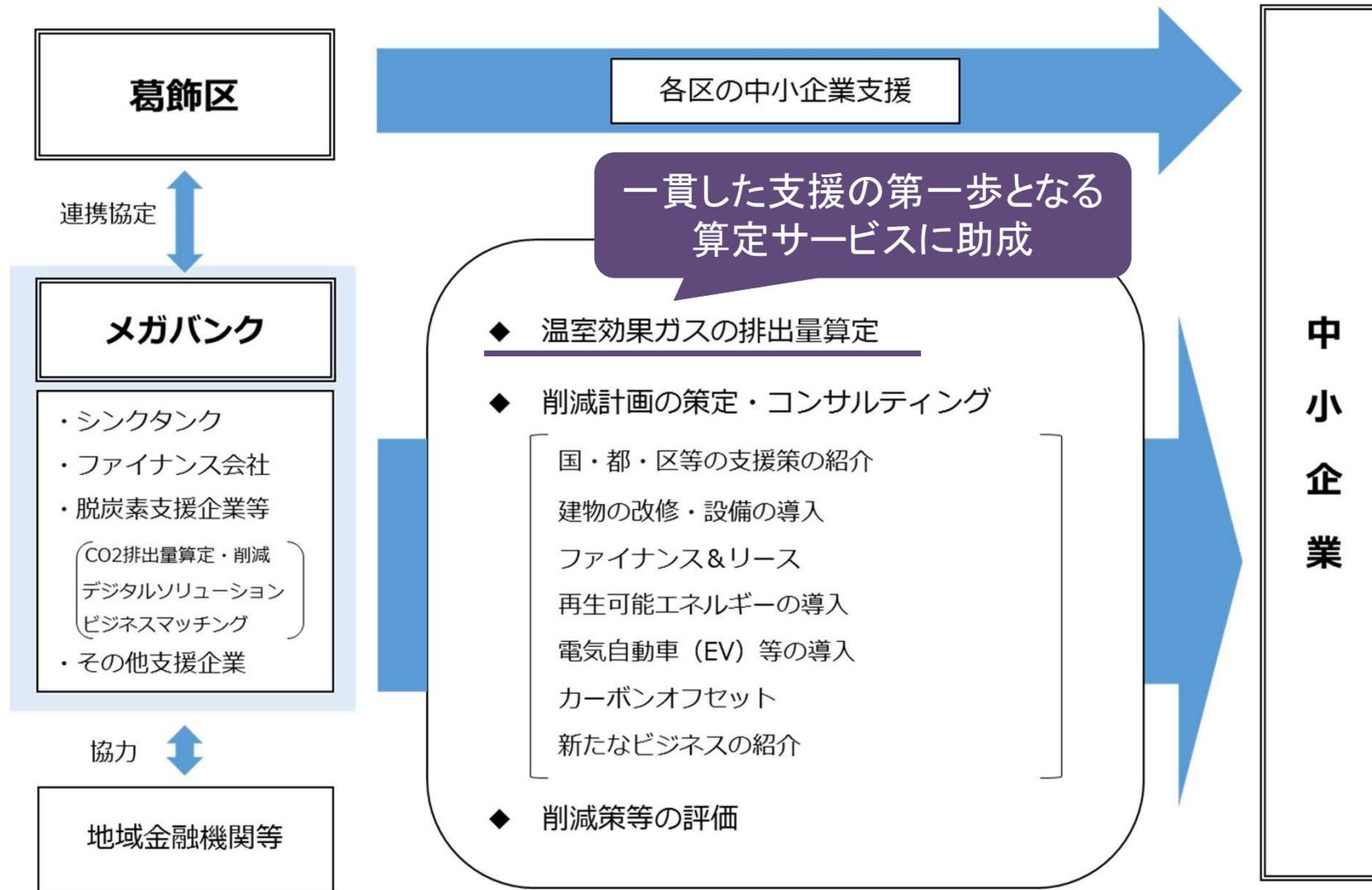
【助成対象】 以下の①及び②を満たすもの

① 温室効果ガス排出量の算定を支援するもの

② 排出量の削減に向けた分析や取組の提案があるもの

【助成額】 年間利用料の 1 / 2 上限15万円

- 区では、メガバンクと連携し、メガバンクとその関連企業が提供できる温室効果ガス排出量の算定、削減計画の策定・コンサルティング、削減策等の評価という一貫した支援を中小企業に行う体制を検討しています。
- クラウドサービスへの助成は、この支援体制をより一層推し進めることに活かしていきます。



(案)

## 第2次生物多様性かつしか戦略実行計画

2023（令和5）年度～2031（令和13）年度



水田支援事業（区立花の木小学校）



かつしかっ子探検隊（江戸川）



（区自然保護区）  
水元さくら堤フジバカマ



（在来種・希少種）  
メダカ



（区自然保護区）  
大場川中洲

この計画の推進に関連する主なSDGsのゴール



葛飾区対称可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

# 令和5年度 環境保全団体に活動費を補助します

環境保全団体が実施する調査・研究活動及び一般区民を対象とした環境啓発活動を支援するため、その活動経費を補助します。

## ●補助対象事業

補助の対象とする事業は、補助金の交付申請を行う年度内に自主的に区内で行う活動で、次のとおりです。

### (1) 環境保全に関する調査、研究活動事業

野鳥や魚類など自然環境にかかる生物調査や植物調査、酸性雨調査、水質浄化対策にかかる研究など

### (2) 環境保全に関する成果発表事業

調査研究活動の報告書の印刷、シンポジウムの開催など

### (3) 一般区民を対象とした環境保全に関する啓発事業

所属会員以外の一般区民を対象とした観察会、講演会、講習会など

## ●補助額・・・補助の対象経費の総額の1/2以内で、一団体につき10万円を限度とします。

補助対象経費の区分	補助対象経費の内容	補助割合		補助上限額	
		区分別	全体	区分別	全体
謝礼金	講師謝礼金（外部講師に限る）	10/10	区分別 で算出 した補 助対象 経費の 総額の 1/2	2万円/日	10万円
使用料賃貸料	会場使用料・会議室使用料、付帯設備使用料、 駐車場使用料、借機材・トラック等借り上げ料	10/10		1日 2万円	
委託費	会場運営委託料、廃棄物処理委託費、イベント運 営委託費、外来種防除等対策委託費	2/3		8万円	
印刷費	ポスター、チラシ、プログラム、報告書等印刷費、 コピー代、写真プリント代	2/3		5万円	
通信運搬費	事業実施に係る郵便及びメール便等の送料、資機 材等運搬費	2/3		1万円	
消耗品費	事業実施に係る文房具用品代、用紙代、その他事 業実施に不可欠な消耗品費	1/4		3万円	
その他の経費	事業実施に係る傷害保険等の保険料	2/3		5万円	
区長が特に必要と認める経費		区長が必 要と認め る割合		区長が必 要と認め る額	

# 葛飾区は「繊維to繊維」を推進し、古布(衣類)の廃棄量削減と資源化率向上を目指します

#SUSTAINABLEFASHION

日本で売られている衣服の約98%が海外からの輸入です。



日本のファッション産業によるCO<sub>2</sub>排出量は、原材料調達および製造段階で90%以上を占めており、ファッション産業を持続可能にする為には海外での環境負荷の実態把握とその削減が重要です。



#SUSTAINABLEFASHION

国内に供給される衣服の製造で必要な水の量は年間で約83億m<sup>3</sup>、うち約9割は綿の栽培によるものです。



もし全ての綿をオーガニックコットンにできれば年間約67億m<sup>3</sup>の水消費が削減されます。これは東京都で年間利用される水の4倍以上の量です。

※ここではオーガニックコットンによる水消費削減率は90%として計算しています。  
出典：Soil Association 「Organic cotton and water report」



#SUSTAINABLEFASHION

家庭から手放される衣服のうち、リユース・リサイクルされる割合は約34% 残りのごみとして処分されます。



もし残りの全ての衣服が回収され、リサイクルを経て原材料に再供給された場合、最大で年間約2,500万トンのCO<sub>2</sub>排出量が削減できます。これは東京都における年間のCO<sub>2</sub>排出量の約4割に相当します。



#SUSTAINABLEFASHION

家庭から手放される衣服の量は年間約75万トン、うち約50万トンがごみとして出されています。

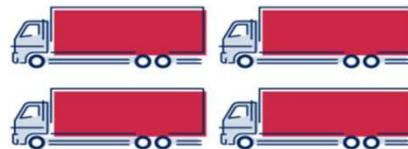


ごみに出された衣服が再資源化される割合はたった5%ほど。服を資源として再活用することが求められています。



#SUSTAINABLEFASHION

平均すると1日あたり大型トラック約130台分の服が焼却・埋立処分されています。



日本の家庭から焼却・埋め立てされる服は、年間約48万トン。廃棄量の削減が課題です。



葛飾区では、年間約200トンの古布を資源として回収しています。

しかし、回収された古布の20～30%は廃棄されています。また、年間2千～3千トンもの衣類が燃やすごみとして出され、焼却されています。

# 葛飾区は「繊維to繊維」を推進し、古布（廃棄衣類）の資源回収に力を入れます



約2000～3000トンの繊維が  
まだ燃やすごみの中に！？



集団回収の強化で回収量  
と資源化率向上！



## 資源回収



使用済衣類  
(廃棄衣類)



資源化（リユース・リサイクル・  
ケミカルリサイクル）

資源回収量（200トン）

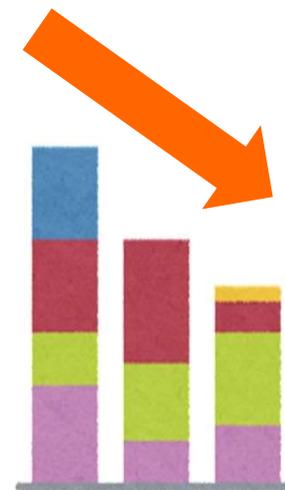
リユース（中古衣料）

リサイクル（ウエス・フェルト）

資源化できない20～30%  
は焼却処分に！？



繊維to繊維で将来的に  
は、燃やすごみ量の  
ゼロを目指す！



※区民の皆様身近な環境問題として認識いただき、行動を促してまいります